

「環境フォーラムin紀南」開催

9月25日、田辺市の紀南文化会館で「環境フォーラムin紀南」を開催しました。このフォーラムは紀南で活動する環境団体の活動発表とお互いの交流をはかり、市民のみなさんには環境の大切さを理解いただくために開催するもので、昨年に続き2回目となります。

4階の研修室とロビーでは20団体の参画を得てそれぞれの活動紹介のパネル展示やミニ講座を行いました。遠くは紀の川市の地球温暖化対策協議会も参加いただきました。特に今回は子どもたちに環境への関心を持ってもらいたいということで、市内の小中高4校の環境活動を紹介したパネル展示を行いました。また、牛乳パックを利用した紙すき体験、発電自転車の試乗体験を行いました。

午前中に行ったミニ講座は今年、名古屋で開かれる生物多様性条約COP10にちなんで、県の自然環境室から「和歌山県の生物多様性」の講座を、また、和歌山大学システム工学部 伊東千尋先生からは木炭からつくるこ

とができるという素材「カーボンナノチューブ」についてお話をさせていただきました。

午後は、同じ4階の小ホールで田中優さんの講演会を行いました。田中優さんの講演は昨年引き続き2回目ですが、昨年は、地球温暖化のメカニズムから世界の状況、そして私たちが今何をすべきかをお話いただきました。今回はより具体的に「地元資源を活かした地域の活性化」と題して、全国で行われている波力、風力、水力、バイオマスといったその地域の特性をエネルギーに変えている事例を紹介しながら、今こそ、地域の人の知恵を活かしていくことが大切だと訴えました。

この日一日を通して、約200人の方に参加いただきました。もっと多くの方々に参加いただきたかったと思いますが、時あたかも県下のいくつかのスーパーがレジ袋をまた無料化しようとしているなどと報道されていました。いろいろな環境施策がうまく進まないことに苛立ちに近いものを覚えるのは私だけではないでしょうが、今後もこうした活動を地道に進めていきたいと思っています。

紀南地域地球温暖化対策協議会 松下精二



講演する田中優氏



フォーラムの展示会場



「わかやま環境フォーラム2010」を盛り上げよう

..... 「うちエコ診断」もいよいよ開始

観測史上最高といわれる厳しい夏も終わり、年度もいよいよ後半に突入しました。

わかやま環境ネットワークでは、今年度のメイン・イベントである「わかやま環境フォーラム2010」(11月27日開催)の成功に向けて準備に拍車をかけています。

また、家庭のCO2見える化と実質削減を図る新事業「うちエコ診断」を担う診断員・相談員が21人誕生、10月1日に、いよいよ診断事業のスタートをきりました。

その他、環境フォーラムに合わせて、「STOP温暖化木

の国知恵の環コンクール」がありますし、エコチャレンジ事業も第一回の環境家計簿チャレンジ募集があります。さらに、各月開催の環境学習会を今年度は、高等教育機関コンソーシアム和歌山公開講座として、外部講師を招いて3回連続で開催します。

いずれの事業も、会員並びに推進員の皆さんにまずチャレンジし、参加していただきたいものです。地域草の根の温暖化対策を進め、持続可能な和歌山づくりのためにともに手を携え進んでいきたいと思っています。

地球温暖化防止全国ネット、新全国センターに指定

わかやま環境ネットワークも参加し、全国業務担う

地球温暖化対策推進法に基づいて環境省に指定されていた「全国地球温暖化防止活動推進センター」（JCCCA「ジャッカ」）は、昨年「事業仕分け」の中で、親法人である（財）日本環境協会が、いわゆる天下り法人であることなどが問題とされ、解体的危機に陥っていました。

全国の都道府県センターが結集する地域センター連絡会では、全国センターのあり方を話し合う中で、自分たちが全国センターの役割を担うべきではないかという声が上がりました。

わかやま環境ネットワークとしては、地域で草の根的に温暖化対策を実践している我々の立場から全国的な啓発活動を推進していきること、また、全国

ネットを通じて環境省との対話のルートが開けることなどから、積極的にこれに賛成しました。

その結果、本年8月、連絡会を解消して一般社団法人地球温暖化防止全国ネットが設立され、10月1日、環境大臣より新JCCCAに指定されました。

わかやま環境ネットワークも、和歌山県地球温暖化防止活動推進センターとして、新法人の会員となり、全国の地域センターとともに事業の一端を担っていくことになりました。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、新JCCCAのホームページは、下記のとおりです。

<http://www.jccca.org/about/about02.html>



マイバッグ持参の本道再び

レジ袋無料配布復活の評価について

食品量販店など県内の小売り事業者、地方公共団体、市民団体で作る「和歌山ノーレジ袋推進協議会」は9月29日、会員事業者の多くがレジ袋の無料配布を再開したことを受け、今後は有料化だけに限らない幅広い手法でレジ袋削減に取り組んでゆく新しい方針を確認した。2008年1月23日から県内の多くの食品量販店で共同実施されてきたレジ袋の有料配布は、約20ヵ月でいったん幕を閉じる。

推計値だがレジ袋は現在、日本国内で年間305億枚が消費されるという。この生産に必要な石油は日本の石油総消費量の丸1日分、生産と処分では排出されるCO₂はざっと200万トンで国民一人あたりにすれば約18kgだ。この環境負荷をどう評価するかについては意見が分かれるかもしれないが、マイバッグの環境負荷は平均でレジ袋10枚程度、PET再生樹脂ならわずかに2枚だ。何度も再利用するならレジ袋も悪くはないのだが、一度きりでゴミとなって捨てられることも多い。そんなレジ袋を減らせるだけでも、マイバッグ持参が環境にも資源保護にも良いことに議論の余地はない。

であればこそ、女性団体や市民団体は長らくマイバッグ持参の啓発をしてきたわけだが、意識から始めて行動まで変えるのはたやすいことではない。目の前の便利さ安易さについて甘えてしまうのが私たち庶民の日常だからだ。だが、その便利さ安易さに代価が伴うとなれば話は別、意識より先に行動の方が電光石火で変わる。それまで14%程度だったマイバッグ持参率は、レジ袋が無料ではなくなった途端90%

飛躍した。啓発のアナウンス100回より1枚5円の方がレジ袋削減効果は圧倒的に高い。

今回、この効果抜群の対策が頓挫した理由は、エバグリーン

という量販業者が、この運動への参加を拒むばかりか、レジ袋無料配布を露骨な客寄せに使ったからだ。食品量販店間の競争で和歌山は全国でも有数の激戦区という。スタート時点で参加していない業者も徐々に巻き込む方針だったが、こんな確信犯的火事場泥棒がのさばってはたまらない。私は事態を打開しようと前後3回、同社に対し廣岡聖司社長への会見を丁寧に申し入れ、その都度、追って返事をする旨の回答を得たが、いずれも以後はなしのつぶてだった。会わずに逃げるのは勝手だが、断るにも礼儀があるだろう。一般社会では考えられない一連の非常識、無礼不作法は、同社の見下げた商魂の現れと断ぜざるを得ない。

とはいえ、今回の事態は、マイバッグ持参運動本来の姿に戻るだけのことで落胆するには及ばない。有料化はいわば最後の手段であって、やはり本道は市民一人ひとりの意識をコツコツと変えてゆく粘り強い活動にある。この20ヵ月、競争条件の不利に耐えながら多くの事業者が協力してくださったおかげで、県内のほぼ全世帯がマイバッグを持ったことだろう。1枚のレジ袋を大切に使う意識も強まったはずだ。そうした到達点を積極的に評価しながら、今回有料化という高いハードルを下げた参加条件を活かしてコンビニやホームセンターにも運動の輪を広げ、持続可能な低炭素社会建設を支える意識づくりをより強力に進めたいと思う。（重栖 隆）



このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

龍神村アートセンター

龍神村アートセンター（旧龍神国際芸術村アートセンター）は、1983年、芸術による村おこしの拠点として、中学校の廃校を活用し、旧龍神村により開設され、ものづくりや研修、交流の場として、地域づくりに大きな役割を果たしてきました。運営、活動はすべて民間の自発的な取り組みによるもので、自然環境の保全や山村の文化の保存、継承、そして新たな創造を村おこしの重要な柱と捉え、様々な活動に取り組んできました。その主なものが紙漉きです。村では古くから紙漉きが行われ、「山路紙」と呼ばれ、暮らしの中で様々な用途で使われていました。いったん途絶えていましたが、当初より、その聞き取り調査、研究を始め、復活させることが出来、2009年に田辺市龍神山路紙保存伝承施設として開設された今の地に移転しました。

原料の楮（こうぞ）は成長が速く、刈り取っても株から新芽を出し毎年収穫を繰り返します。灰汁で煮、水と



太陽で晒すだけで、白い繊維を取り出すことが出来、環境に負荷をかけることなく、資源としても優れた植物です。地元の廃材をまきにして釜戸で煮熟し、



長野こどもクラブワークショップ

出来た灰はアルカリ材として利用する、循環型の産業です。すべて手仕事のため電気もほとんど必要ありません、その様にして出来た紙は何百年でも長持ちします。アートセンターでは、紙の大切さや森林問題について学ぶ機会となるよう「紙漉き体験教室」を、開いています。

その他に、女性サークル「手づくりクラブ」は、廃油せっけんを製造、販売しています。また「糸つむぎの会」は、自然素材によるものづくりをする会として発足し、途絶えそうになっている在来種の「和棉」を育て種を広めて増やす活動をしたり、紡いで織物を織ったりしてきました。またアートセンターでは自然染色「草木染め」を行い、「絵画教室」も開いています。環境破壊を止めるには、自然に対する畏敬の念と、美しいと感じる心を取り戻し、大切に育てることが必要なのではないのでしょうか。

龍神村アートセンター 奥野 佳世

世界一巨大な生き物の話

小坂洋司

世界一巨大な生き物ってなんだと思いますか？
ぱっと思いつくのはクジラだと思いかもかもしれませんが、実はキノコなんです。

1998年アメリカで発見されたオニナラタケの菌床（※）は、890平方キロメートルに及び、重量は600t、推定年齢は約2400歳という、規格外の生き物です。



天然のキクラゲ

キノコは光合成ができないため、木や虫から栄養をもらって生きています。共生するタイプでは、植物の根に菌糸を張り巡らせて、植物に土壌の栄養を送り、その対価で植物が作っ

た有機物をもらって生きています。

またキノコの仲間、アーバスキュラ菌根類は、ほとんどの陸生植物と共生しています。この菌の菌糸が互いに絡みあうことで、インターネットの



和歌山城に生えていたキノコ

網のごとく、たくさんの植物を菌糸で結びつけます。これは菌根ネットワークと呼ばれています。面白い事に、他の植物からの栄養を、菌根ネットワークを通じて別の植物に送り届けることも報告されています。これは植物同士が菌を仲介して助け合いをしていると考えてもよいかもしれません。森を育てている縁の下の力持ちは、キノコ達、菌類なのです。

※私たちが目にするキノコの部分は子実体とよばれ、胞子を飛ばすための器官です。本体はキノコの下、地中にある菌糸の集まりです。

事務局だより

●ブース出展～あと10団体募集

いわし雲、ススキ、銀杏、栗、秋刀魚…酷暑となった夏もようやく過ぎ、実りの秋たけなわ。

初夏から準備を始めた「わかやま環境フォーラム2010」の開催が、いよいよ来月に迫ってきました。この通信と同封しましたチラシの裏面にもある通り、10月1日現在のブース出展者数は51団体で、目標まであと10団体程度の出展者を募集しています。

一般来場者の目標は、2000人。屋外では、茶がゆの振る舞いやライブ演奏もあり賑わいます。ぜひ、当日はフォーラム会場の和歌山市「片男波」へ足をお運びください！

●定例学習会について

Wenetの定例学習会は隔月の第二水曜日でしたが、コンソーシアム和歌山公開講座に企画応募、採用され、下記のように日程が確定しました（隔月の第3水曜日）。

ぜひ、皆さん、お誘い合わせのうえ多数ご参加ください（会員の予約は必要ありません）。

●参考資料

「MAKE the RULE キャンペーン」では、「温暖化を止めるためには法律が必要！～法律の必要性と内容について提案する勉強会を振り返ろう～」と、「メールマガジン」で今までに行われた勉強会の模様を、改めて公開し、学習を深めることを提案しています。勉強会で講師が使ったパワーポイント資料も見ることができます。ぜひ参考に。

【2009年】

- ◎第一回 COP15の評価とこれからの課題（報告）
[<http://www.maketherule.jp/dr5/node/1161>]
- ◎第二回 森林の取り扱いのこれから交渉の課題やバイオマスエネルギーについて
[<http://www.maketherule.jp/dr5/node/1175>]
- ◎第三回 キャンプ&トレード型の排出量取引制度について
[<http://www.maketherule.jp/dr5/node/1193>]
- ◎第四回 フロン対策の現状と課題
[<http://www.maketherule.jp/dr5/node/1206>]
- ◎第五回 地球温暖化対策基本法の条文を読み込む
[<http://www.maketherule.jp/dr5/node/1208>]

【2010年】

- ◎第1回 エネルギー基本計画について
[<http://www.maketherule.jp/dr5/node/1219>]
- ◎第2回 中長期ロードマップについて
[<http://www.maketherule.jp/dr5/node/1227>]
- ◎第3回 再生可能エネルギーの全量固定価格買取制度について
[<http://www.maketherule.jp/dr5/node/1236>]

- 第1回講座 2010年10月20日(水)午後7時～9時
テーマ:「都市と農村の共生」
講師:大西 敏夫氏(和歌山大学経済学部教授)
- 第2回講座 2010年12月15日(水)午後7時～9時
テーマ:「自然エネルギーと循環型社会」
講師:中村 太和氏(和歌山大学経済学部教授)
- 第3回講座 2011年2月16日(水)午後7時～9時
テーマ:(仮題)「公共交通の活性化」
講師:伊勢 昇氏(和工専環境都市工学科助教)

2010年度後半のスケジュール

- 10月1日～10月31日 (右チラシ参照)
エコチャレンジ(4月～9月環境家計簿)募集
- 10月1日～3月31日 「うちエコ診断」受付
- 11月27日(土)
わかやま環境フォーラム2010
(会場:片男波公園健康館アリーナ)
- 【同時開催】●紀州推進員の会総会
●STOP温暖化木の国知恵の環コンクール
(出品者募集期間:10月1日～11月15日)
- 2月6日(日) 第4回和歌山環境検定
(受験者募集期間:12月1日～1月21日)

あなたもエコチャレンジャーに!

環境家計簿カレンダーに4月～9月の電気使用量等を記入して

お送り下さい。半年毎に電気使用量等をご提出していただき、削減率や取組の優秀な世帯等を県が表彰します。

締め切り 平成22年10月31日

関西電力から毎月届く「電気使用量のお知らせ」から使用量を転記するだけ！前年同月の使用量も今年のお知らせに記載されているから超カンタン！

団体で応募するとダブルチャンス！(※)

豊かな自然を未来に引き継ぐために、エコチャレンジに参加して地球温暖化をストップ！

楽しい賞品もあるよ

※ 団体で応募すると、世帯部門と団体部門の両方で表彰対象になります。

※ 転記の方を入れている取組、ユニークな取組を書いて出ると、さらに別の賞で表彰対象に。

エコチャレンジは、折ると封筒になって、切手代も不要!

環境家計簿アンケート送付先

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒640-8269 和歌山市小松原通3-22
TEL 073-432-0234

お問い合わせ

和歌山県環境生活部 環境生活総務課
〒640-3585 和歌山市小松原通1-1
TEL 073-441-2690

環境家計簿カレンダーは、上記お問い合わせ先で無料で配布しています。また、和歌山県のホームページからダウンロードすることができます。 <http://www.pref.wakayama.lg.jp/pref/032000/kakebo/h2kakebo.html>



ういねっと

(わかやま環境ネットワーク通信) 第22号 (2010年10月7日発行)
発行: NPOわかやま環境ネットワーク 代表理事 重栖 隆
〒640-8269 和歌山市小松原通3丁目2-2 電話 073(432)0234 FAX 073(432)3881
mail: wenet@vaw.ne.jp http://wenet.info/